

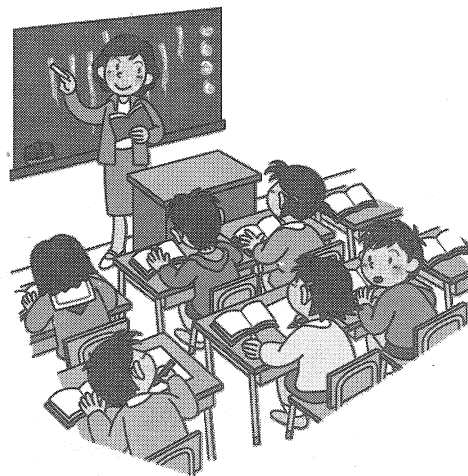
今後の野村小学校のあり方等について、2回目の懇談会が開催されました。その概要を学区内にお住まいの皆様にお知らせします。

第2回 地域懇談会

日時：平成22年 2月3日（水）19時から

場所：野村小学校 体育館

1. 地域懇談会規約の改正について
2. 議事内容
 - (1) 今学校で求められている教育内容について
 - (2) 第3回以降の懇談会の説明項目と内容について



1. 地域懇談会規約の改正について

第1回懇談会の開催後、新たに保護者の方1名が地域委員に加わるようになったため、必要な規約の改正を行いました。

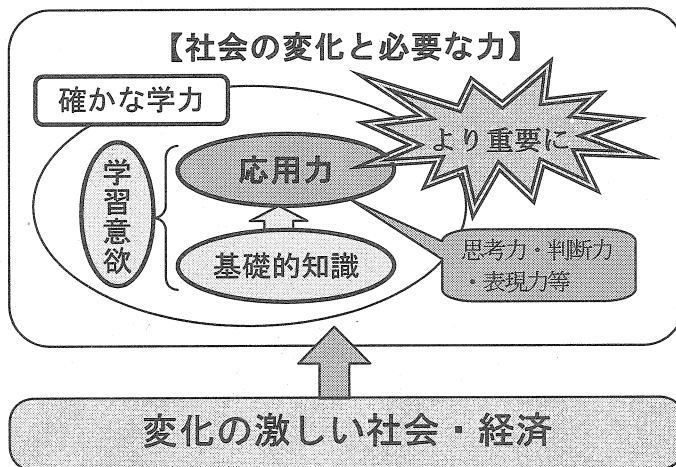
2. (1) 今学校で求められている教育内容について

子供たちに身に付けさせたい力として第1回懇談会で説明のあった「確かな学力」と、それを育むために必要な教育環境について、次のとおり小規模校での教職経験のある職員から説明がありました。

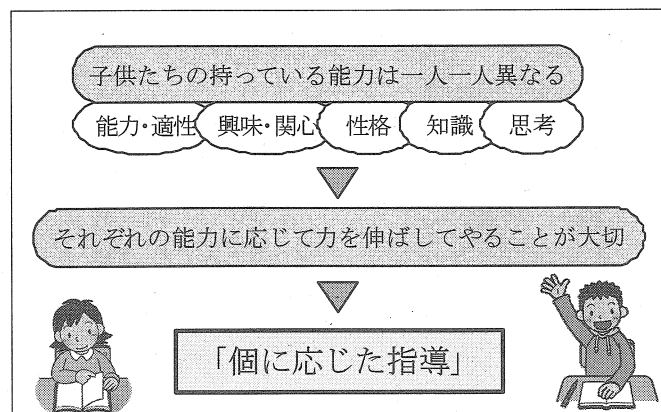
① 確かな学力とは（前回の再確認）

子供たちが将来、変化の激しい社会で自立して生きる上で必要な力として、「基礎的知識」とそれに基づき課題を解決するために必要な「応用力（思考力・判断力・表現力等）」、さらにそれらを支える「学習意欲」が挙げられます。

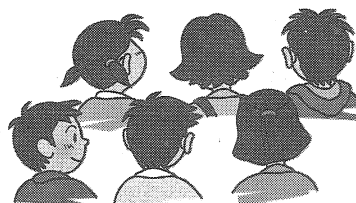
この3つの力をまとめて「確かな学力」と呼んでいます（右図参照）。中でも、特に「必要な情報を選択、分析し、それをもとに論理的・批判的に思考・判断を行い、さらにそのプロセスと根拠を適切に表現し、それを通じて他者と協働して問題を解決」する「応用力」の育成が、今後さらに重要になると考えられます。



② 「個に応じた指導」の必要性



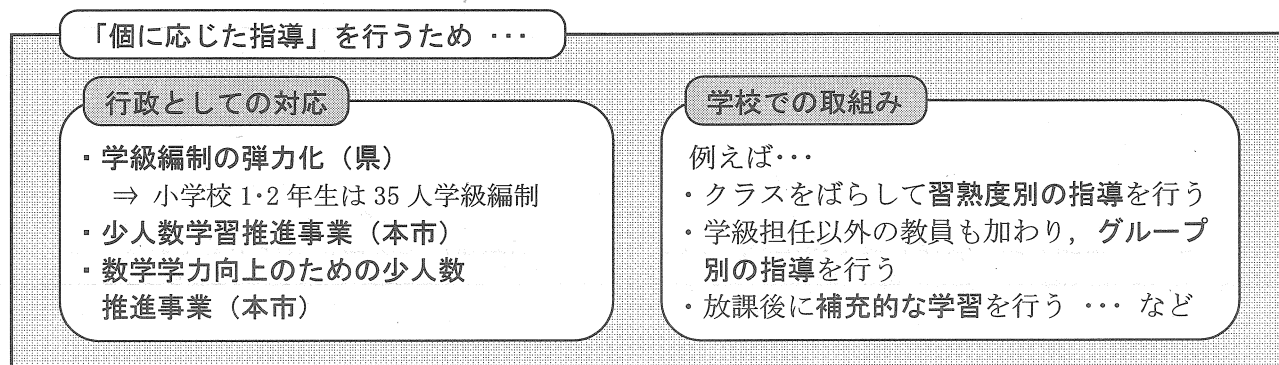
子供たちが持っている能力は一人一人違います。そのため、「確かな学力」を育むためには、今まで以上に「個に応じた指導」の充実を図っていく必要があります。



【 個に応じた指導の具体例 】

「個に応じた指導」を進めていくうえでは、様々な指導方法があります。1人の教師がクラスの児童生徒全員に対して一斉指導を行う中でも、子供たちの中を回って一人一人の理解度をチェックしながら個別の対応をしたり、理解の度合いに応じてグループに分けて指導を行ったり、子供たちの興味・関心に応じて課題別に学習を進める方法などが考えられます。

こうした個に応じた指導を行うために、仙台市を含む県内の小学校では、1・2年生に限って学級編制を40人から35人にしたり、仙台市独自で非常勤講師を配置するなどしているほか、各学校でも工夫しながら取り組みを行っています。これらは、どちらかという少人数で対応するという方法です。

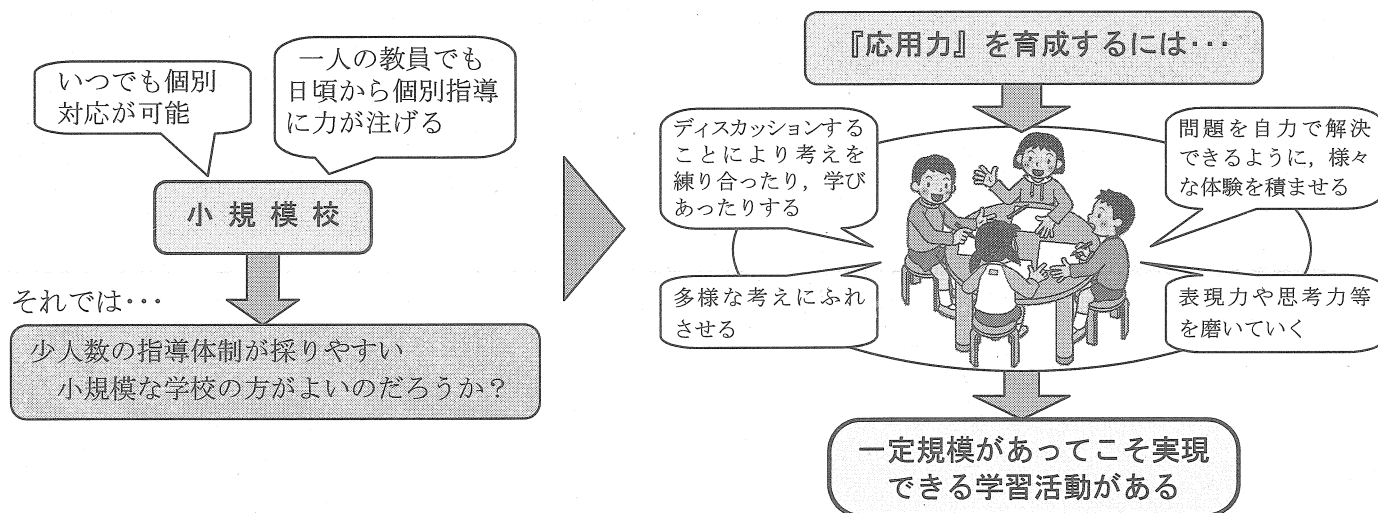


③ 「応用力」を育てるための指導

では、「個に応じた指導」を行う上で小規模の学校は、いいことづくめなのでしょうか。

実は、一定の規模があるからこそ実現できる取り組みがあります。子供の人数がたくさんいると、それだけ様々な考え方にふれ合うことができます。様々な考え方にふれ、考えを練り合い、自分の考えを表現していくことで、思考力や判断力、表現力など、今後ますます重要になる「応用力」を磨いていくことができます。

「応用力」を育てていくためには、子供たち自らが問題を発見し、試行錯誤を繰り返しながら、自力で解決していくという経験を積まないと、なかなか身に付いていきません。



④ まとめ

これまで、学校では主に一斉指導で授業を進めることが多かったのですが、子供たち一人一人の願いや考えに対応しながら「応用力」を育成していくことを考えると、今後は様々な学習形態や指導方法を採用する必要があります。

小規模での少人数の効果というものはありませんが、こうした「応用力」に結びつく学習については、クラスの人数が確保できないと限界があります。



【意見交換の主な内容】

地域委員：一定規模校では、いつでもこのような内容や指導方法で教育活動を行っているのか。

教育委員会：いつでもということではなく、学習内容に応じて、今、説明した指導方法も含めてケースバイケースでの対応をしています。

地域委員：複数の教員で指導する場合もあるとのことだが、思考力の育成とか今まで以上の教育を担当1人で行うのは、限界があるということではないのか。



教育委員会：小規模校の教員も、子供たちに様々な体験を積ませてやりたいと思っていますが、子供の人数が少なければ、その分、多彩な考えが出てきにくくなります。教師の限界というより、その点が問題となってくるのではないかと思います。

地域委員：基礎も十分にできていない子供がいる状況で、小学校の段階から「応用力（未知の領域で、状況を分析して課題を明らかにした上で対応していく能力）」の育成にそれ程までに力を入れるべきなのか。

教育委員会：基礎・基本というのは、学校の規模に関わらず重要であることに変わりはありません。

その一方で、諸外国では、いろいろな教育方法がとられています。今後の社会・経済を考えた場合、日本でも「応用力」を磨くための教育を進めることはやはり重要です。そのためには、大きな学校でも小さな学校でも様々な課題を自ら解決していく体験を子供たちにさせることが必要です。小規模校でも様々な工夫をしていますが、限界があることも事実ではないかと思います。

地域委員：小規模校ゆえに子供たちの考えに多様性が欠けるということは否めないが、応用力を身に付けさせるということであれば、例えば、他校と交流をするといった工夫をすれば、十分なのではないか。

教育委員会：野村小でも様々な工夫をしていると思いますが、それでも限界はあると思います。一学年の人数が少なくなってしまうと、子供たちの中で序列が決まってしまう。そういう状況の中では、子供たちが考えを練り合うということは非常に難しいということをご理解願います。

地域委員：中学校で「学校の勉強では足りないので、塾に行ってください」と言っているのを聞いたことがあるが、学校の勉強をきちんとしていれば、塾までは必要ないと思う。思考力とか応用力とか学習内容の中身よりも、むしろ先生の質を上げるべきではないか。

教育委員会：学校や教育委員会では教師力・授業力の向上に努めていますし、さらにそれぞれの学校では、放課後の個別指導など様々な取り組みをしています。仮にそのような発言があった場合、教育委員会では、学校に確認をしながら、対応することになります。

地域委員：「未知の領域で論理的に判断して分析しながら考えていく力を育む」ということだが、それは、あくまでも30人、40人のクラス編制を前提とした理論だと思う。小規模校なりの理論もあると思うが、どう考えているのか。

教育委員会：ある程度の人数がいれば、様々な授業形態がとれますが、人数が少ないとそういった形態がとれないことがあるということです。例えば、大勢の前で発表するというのをとって、小規模校では、そうした機会が作れるように努力をしていますが、日頃からできるかと言えばできないのが事実であり、一定規模の学校では、いろいろな活動を日常的に行うことができるということです。

地域委員：確かな学力の説明は分かるが、そのためだけに小学校を統合する必要はないし、中学校になってからでも遅くないと思う。また、野村小学校では「いじめ」はないが、他の学校のように競争させればさせる程「いじめ」は出てくると思う。

教育委員会：子供には発達段階があり、小学校に入学してから高学年になるまで、それぞれの年齢に応じて吸収すべきものがあると思います。子供たちはたくさんの仲間の中で様々な経験を積み、ときに揉まれることも意味があることだと思うのですが、小規模校で問題なく育っていった、中学校に入ったとき大丈夫かなという心配があります。私も小さい学校で教えていた経験がありますが、逆にもう少し大きな集団の中で揉まれることが必要なのではないかと思います。

地域委員：中学校になって、教科書を忘れる、給食は残す、授業中に寝ているという子供たちの多くは大きな小学校出身の子供たちである。必ずしも、大きな学校が良いとは思えない。

教育委員会：大きな学校云々というよりも、子供たちに対してどういうふうに指導するか、ということだと思います。「いじめ」もそうですが、必ずそうなるのかと言えば、そうではなくて、教員の指導によってその部分をクリアして、子供たちを一步前進させ大人にしていくということではないかと思います。

地域委員：先程説明を受けたような指導法は、野村小でもやっていると思う。学力が市の中間よりも低いということであれば考えなければいけないかと思うが、3年生、5年生はそれを上まわっている。なぜ、統廃合という話になるのだろうと思う時があるが、やはり、子供たちのことは保護者の皆さんの考え方次第であり、その考え方を尊重しないといけないのではないかと思う。

地域委員：小規模校は、授業の進め方であれ何であれ、先生が子供一人に対する時間が多くとれ、子供たちに対して広範にわたって指導ができるのではないか。そして、子供たちもそれに対応した考え方で学習を進めていくのではないかと感じる。これほど恵まれた学校なのに、何が問題なのだろうと思う。

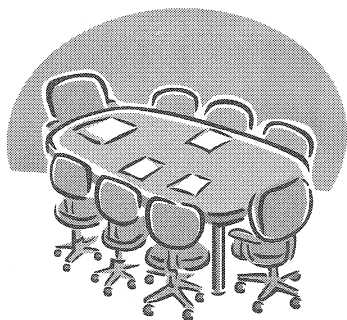
地域委員：思考力や判断力を身に付けるための小規模校なりの工夫について、まずは、地域と家庭、学校、教育委員会とで解決策を話し合い、それでも、最終的にどうにもならないということになってから統廃合の話になるのであれば、理解できる部分もあるのだが。そうした小規模校なりの工夫は考えていないのか。

教育委員会：野村小の先生方も日々努力しているのだと思います。他学年の子供たちの前で学習の成果を発表したり、保護者や地域を巻き込んで、いろいろな方々に授業の様子を見ていただき、意見をもらったりするなど、少ない人数のデメリットをカバーし、応用力をいくらかでも育むように対応しているのではないかと思います。

2.(2) 第3回以降の懇談会の説明項目と内容について

事務局から、前回提示されていた「テーマ（案）」の第5回と第6回の順番を入れかえた上で、地域委員側の要望があれば、適宜、柔軟に対応していきたいという説明があり、その内容で進めていくこととしました。

	地域懇談会でのテーマ（了承後の内容）
第2回（今回）	今学校で求められている教育内容
第3回・第4回	一定規模確保の必要性
第5回	地域コミュニティと学校の役割
第6回以降	統合に向けた教育委員会の考え方及び他都市の状況



次回は、今学校で求められている教育環境について、主に学力以外の観点で、教育委員会から「一定規模確保の必要性」の説明をする予定です。

【第3回地域懇談会の開催日程】

日時：平成22年6月4日（金）19時から

場所：野村小学校 体育館

※ 保護者、地域関係者の方は、地域懇談会を傍聴することができます。

「野村小学校の一定規模確保に関する地域懇談会」では、地域にお住まいの皆様からのご意見をいただいております。FAX、電子メール等にて事務局までご連絡ください。

地域懇談会事務局（仙台市教育委員会事務局 学校規模適正化推進室）

電話 214-8432 FAX 264-4428 Eメール kyo019031@city.sendai.jp

仙台市教育委員会の基本方針等、市立小・中学校の一定規模確保に向けた取組みの内容については、ホームページでもご覧いただけます。⇒ <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/tekiseika/index.html>